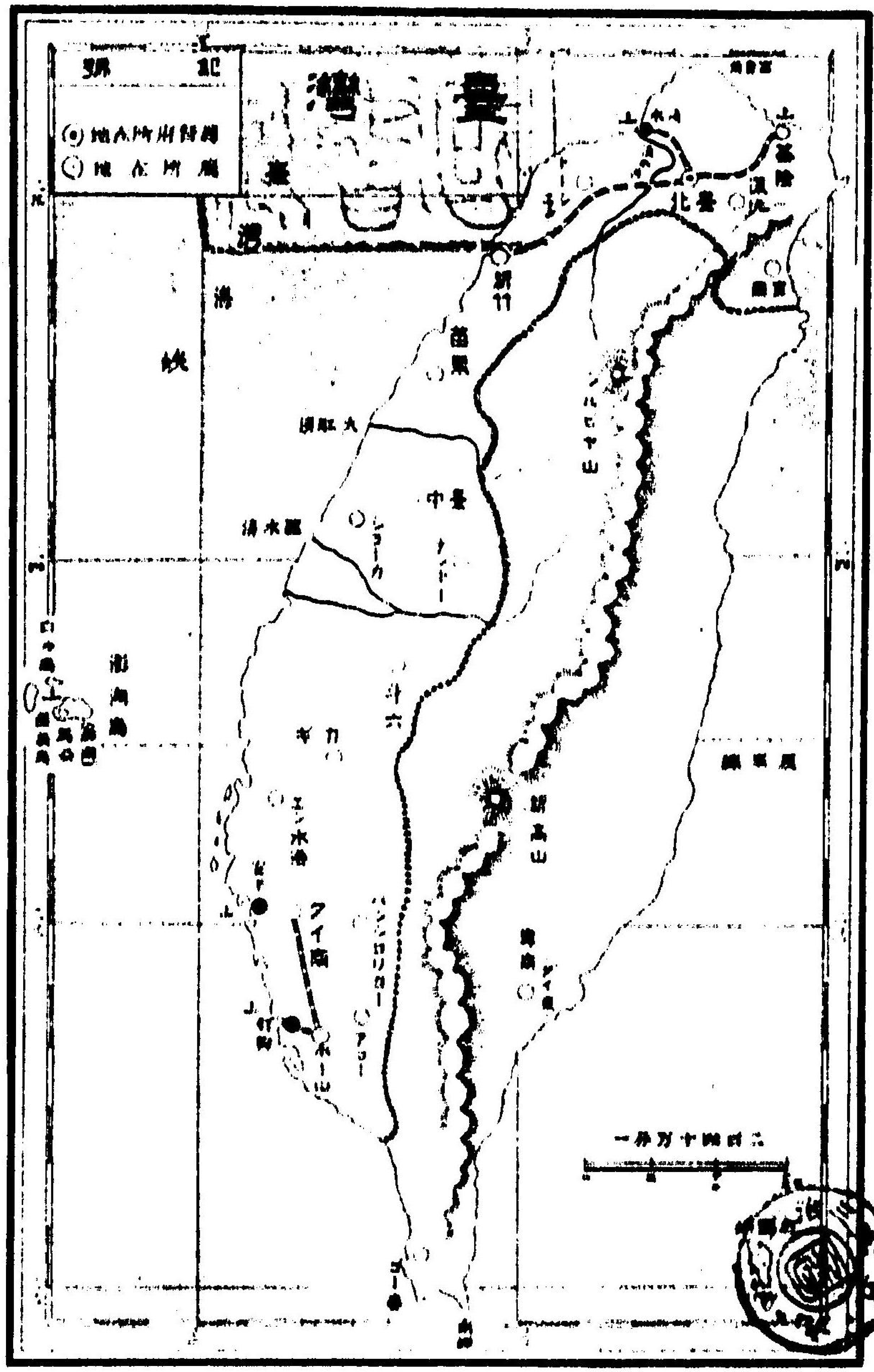
N-26

臺灣誌

全

特49
971



臺灣區

位置、臺灣は我が國の西南端にあり、沖繩縣の南に接し、臺灣海峽をはさみて、支那の南部と相對せり。長崎より西南凡そ三百里のところに位し、西に澎湖群島あり、東南に紅頭嶼あり。

地勢、臺灣島の地形は、東西にせまく、南北に長く、其形魚ににたり。

臺灣山脈は、本島の南北をつらぬく中軸より、をよそ三分の二東にかたより、南よ

り北につらぬけり。此山脈中に、新高山あり、高さ凡そ一万三千餘尺、我が國第一の高山なり。

山脈の東部は、急なるかたむきを以て、海に沒し、平地すくなし。此地方及び中央の山脈中に、野蠻の民すめり、之を生蕃といふ。西部は平原廣く、土地開けて、內地の人多くすめり。

海岸は、出入少なけれども、東方をのぞき、皆二三の港あり」

河流、河流は、淡水河、大肚溪、濁水溪等あれども、皆急にして、大雨あれば、一時に出水するを以て、昔より、堤防の設けなく、たゞ淡水河のみは、水利少なからず。

氣候、臺灣島の一部は、熱帶に入れるを以て、本邦中最も熱く、沿岸は年中殆んど雪ふることなし。ペスト、マラリヤ等の疫病、常にたえず、內地に比して、やゝ不良の如くなれども、住みなるれば、健康に害なし。雨は、冬、春の間は北部に多く、夏は南部に多し。

物產、氣候熱く、土地肥ゑたるを以て、農產に富み、米は、一年二回、又は三回の收穫ありて、產額凡そ八百万石に及ぶ。茶は、烏龍（ウーロン）茶として北部に多く、砂糖の產出は南部に夥し。樟腦、食鹽の產額も亦少なからず。其他、用材には、榕、樟、檜、竹等を出し、畜產には、水牛、豚等を飼ふこと盛なり。また北部より金、砂金、石炭等の鑛物を產す。

面積人口、面積は、二千二百六十七方里餘にして、人口凡そ三百万あり。されど、內地人は僅に三万人內外にして、其他は元支那人、及び蕃人なり。

商業、支那との貿易は、古より盛なり。開港塲は、基隆（キールン）、淡水、安平（アンピン）、打狗（タカオ）の四港にして、輸出入額、一年間殆んど二千万圓以上に及ぶ。輸出品は、茶を第一とし、樟腦、砂糖、穀物これにつぎ、輸入品は、阿片、米、支那綿、石油、煙草等なり。

政治、臺灣總督府に、總督を置き、臺灣全島を管轄し、其下に二十廳を設け、其地方を治め

しむ」

總督は、親任官にして、陸、海軍の大將、若しくは中將を以て充つ。

備考、廳名左の如し」

臺北、基隆、宜蘭、深坑、桃仔園、新竹、
苗栗、臺中、彰化、南投、斗六、嘉義、
鹽水港、臺南、蕃薯簝、鳳山、阿猴、
恆春、臺東、膨湖、

交通、鐵道は、北部は基隆より起り、臺北を經て、新竹に至る。又臺北より淡水に支線あり。

南部は、打狗より臺南まで開通せり。

航路は、基隆より起り、一は東方、一は西方に向ひ、全島を一週せり。

地方誌

基隆、基隆は、臺灣第一の開港場にして、其門戸をなし、港内水深けれども、東北風を防ぎがたし。此附近は、所々に石炭を產す。神戸との間に、定期滊船の往來あり。

淡水、淡水も、有名の開港場にして、茶、石炭、樟腦を輸出す。

臺北、臺北は、臺灣總督府のあるところにして、淡水河に臨み、臺灣第一の都會なり。市街は、城內、艋舺、大稻埕の三部よりなる。城內は、周圍に石壁をめぐらし、堅固なる城門を設く、(近頃此石壁及び城門をこぼちて建築材料に用ふれば二三年の後には此城壁は見ることを得ざらん)大稻埕には、烏龍茶の製造盛にして、內外の巨商多くこゝに住めり。

臺中、臺中は臺灣島の中部に位し、もと臺灣府と稱せしところなり。其西に彰化あり。

臺南、臺南は、南部の都會にして、久しく此島の首府たりし所なり。西に安平港あり、盛に砂糖、樟腦を輸出す。南に打狗港あり、神戶との間に、定期滊船の往來あり。其東に鳳山あり、嘉義は、臺南の北東にあたり、臺灣中部の一都會なり。其他恒春、卑南、宜蘭等の名邑あり。

澎湖群島は、澎湖島を主として、漁翁島、白沙島と共に巴の狀をなせり。馬公(澎湖廳

所在地)は澎湖島の南西部にあり、海軍の要港なり。

沿革、大古は、全島皆蠻民の住する所なりしが、我が朝元和の頃は、(徳川秀忠將軍たりし頃)幾んど我が國民の占領するところとなれり。其後、和蘭人遂に土地を奪ひ、城を築きて、一時臺灣の主となれり。濱田彌兵衛の、渡來せしは、此當時の事なり。寛文五年、明の鄭成功、蘭人をしりぞけ、守備を修め、政教をしきたりしも、孫、克塽に至りて、清に降り、臺灣は、其版圖となれり。明治四年、琉球の漂民五十余名、蕃人の爲に殺され、同六年、備中の漂民四名、亦害に遭ふ。是に於て、朝廷兵を出して之を討ちしが、清國償金を出して、之を謝し、以て事平げり。

明治二十七八年、我が國と戰ひ、大敗して、遂に本島を割き、償金を出だし、和を請ひければ、これより我が國の版圖となれり。

臺灣誌終

222
2112

明治三十五年四月三十日印刷
明治三十五年五月五日發行
十

（非賣品）

著作者　岡山縣岡山市門田屋敷七十四番地　進藤貞範

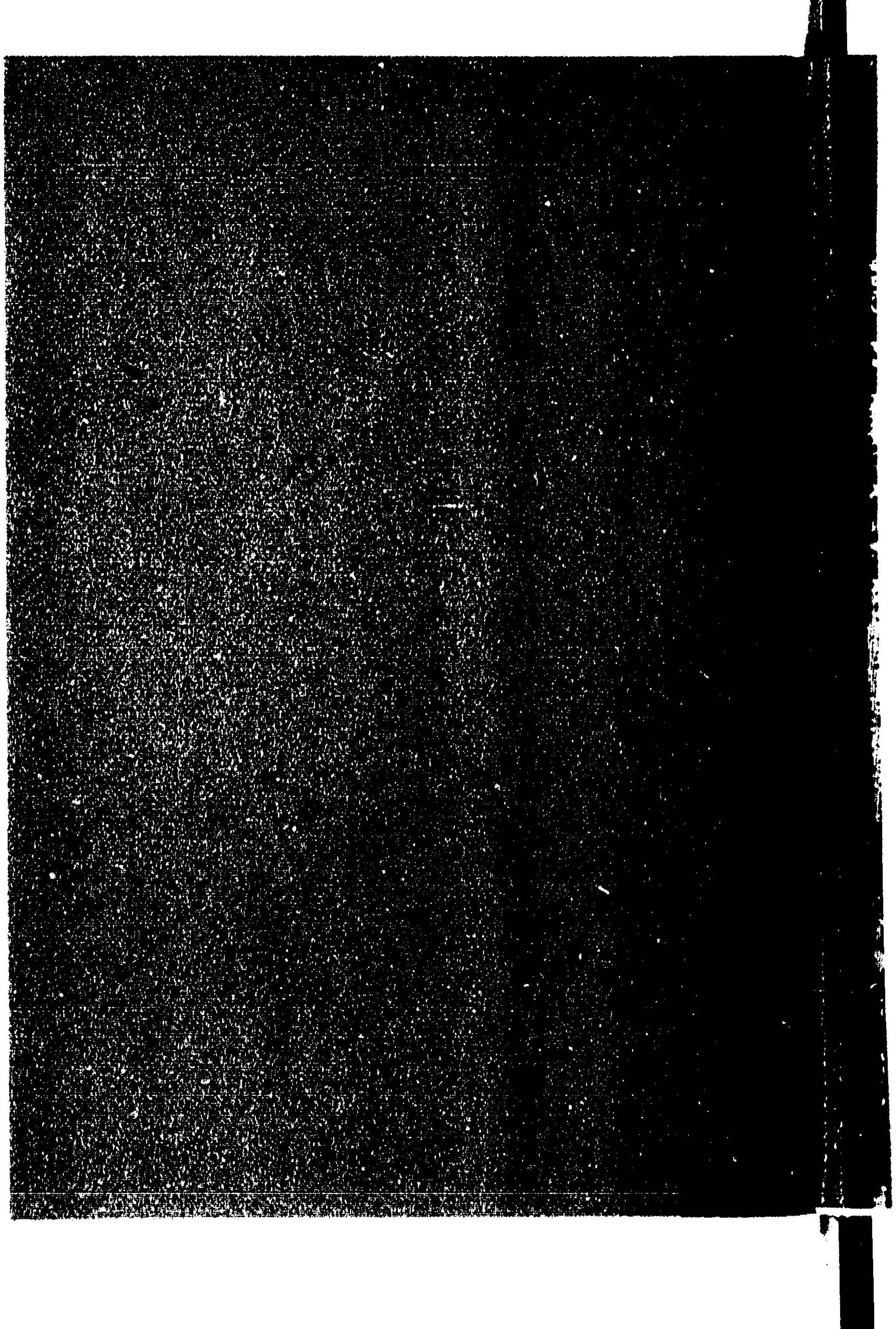
著作者兼發行者　岡山縣岡山市野田屋町百六十二番地　石村龍造

印刷者　岡山縣岡山市七軒町二十二番地　黑泉富三郎

發行所　岡山縣岡山市内山下二十五番地　週榮堂

印刷所　岡山縣岡山市東中山下四十番地　中國民報社

不許複製



臺灣誌

進藤貞範
石村龍造

国立国会図書館

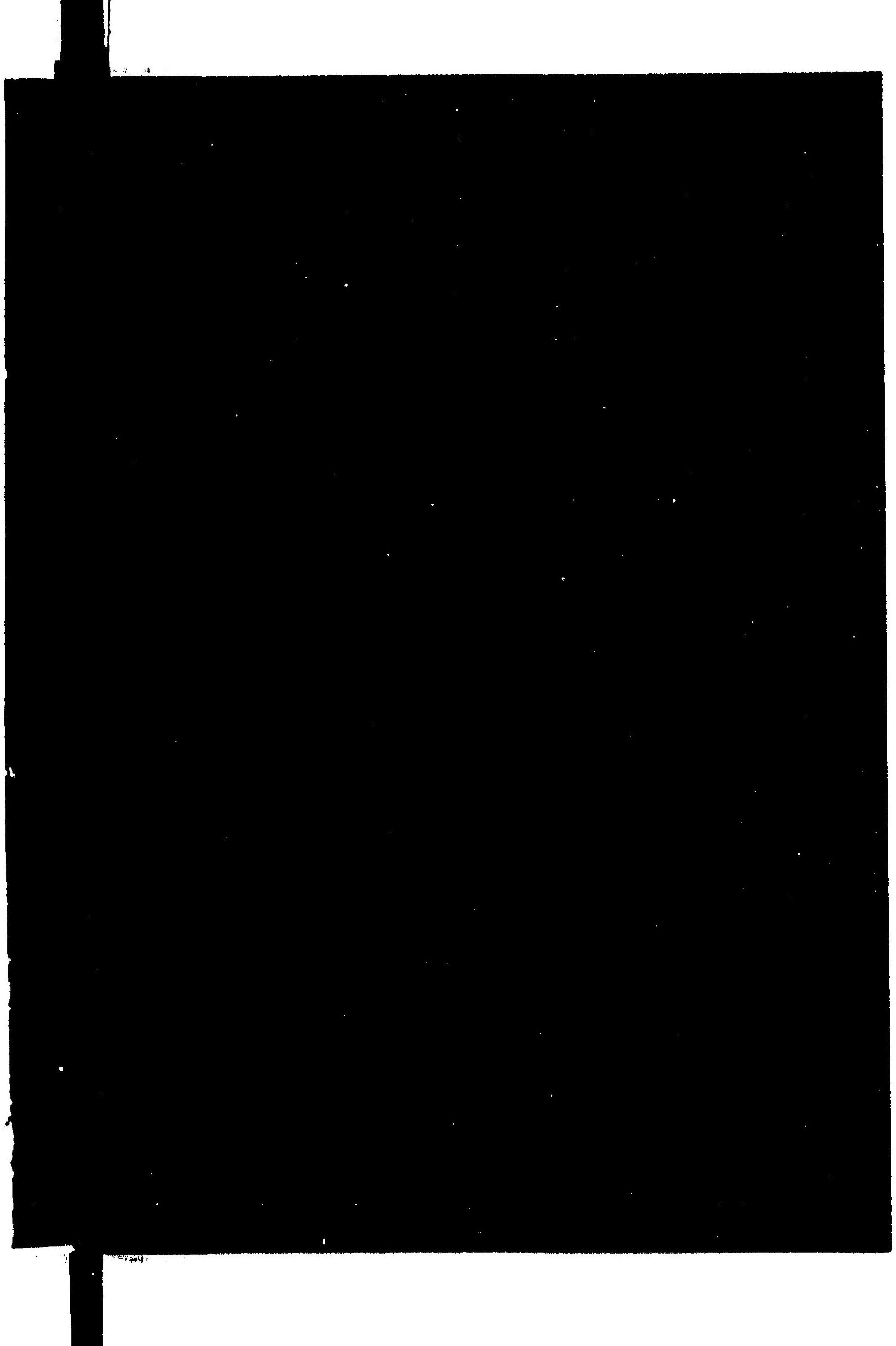
特
9

026597-000-4

特49-971

台湾誌

進藤 貞範
石村 龍造／著

M35

ADD-0278